人間力を養う課外教育活動

Irregular Course Education of Cultivating Human Capacity

松 尾 直 規

Naoki MATSUO

大学における教育改革が、社会経済構造の変化やグローバル化の進展に伴う教育ニーズの変遷と、少子高齢化、核家族化、情報化社会における家庭教育および初等、中等教育の変質、高等教育の大衆化などに伴う学生資質の多様化（学力低下を含む）に対応すべく、全国規模で進められています。これらの改革は、大学や学部・学科の教育目的および学修目標を達成するための正課教育の改革が中心となるのが普通ですが、卒業生がこれからの社会で持続的に人類の福祉・幸福の向上に貢献するには、正課教育のみならず、正課外教育すなわち課外活動による自主的、能動的な心技体の鍛錬がこれまで以上に求められると考えます。

課外活動には様々なものがありますが、筆者の経験から、運動部の活動については、集団競技、個人競技の別は多少あるものの、結果を出すには、的確な判断と行動ができる分析力、判断力、適応力に加え、緊張に耐えてチャンスを待ち、それを逃さないための忍耐力、集中力、さらには個々の力を結集する統率力、協調力など、優れた知力と人間力が必要です。

文化・芸術・科学技術に関するクラブ、同好会、さらには各種サークル活動では、それぞれの分野の本物に接し、それを自ら追い求めることを通じて、知性や感性、ならびに心と技を磨き、人生の糧となる教養を実践的に身に着けることが可能となります。

こうした課外活動には、各種ボランティア活動や地域活動は言うに及ばず、適当なアルバイトまでも含むものと考えられ、いずれにおいてもその活動を通じて、挨拶や礼儀、言葉遣い、他人への思い遣り、実社会との接し方など、人として身に付けなければならない基本的資質や、社会人としての素養が養われます。さら

には、人生の様々な局面で支えになる生涯の友人、知人を得ることもできます。

大学教育の改革は、ともすれば正課教育のそれに偏重しがちであり、正課教育と合わせた課外教育の重要性が指摘されながら、その取り組みは未だ不十分と言わざるを得ません。工学教育においては、専門分野の知識、技術を身に付けた自立的、創造的な技術者の育成が求められていますが、上述した課外教育活動から得られる人間力の向上なくしては、社会が求めるそうした人材育成を十分に成し遂げることはできません。

課外教育活動には、多様な形態があり、その求めるところも様々であります。多様な資質を持った学生が、それぞれの興味と関心、及び活動目的に応じて自分に合った課外活動に積極的に参加し、正課教育だけでは身に付けることが難しい人間力を磨き、次代を担う社会人としての成長を成し遂げるために、大学は何を成すべきかが問われています。この問いに、的確な答えを出し、速やかに実行に移すことが真の教育改革を進めることにつながるものと考えます。

松尾 直規

1972年 京都大学工学部衛生工学科卒業
1975年 京都大学大学院工学研究科衛生工学専攻修了
1975年 京都大学工学部助手
1981年 中部工業大学講師
1982年 京都大学工学博士
1982年 中部工業大学助教授
1992年 中部大学工学部教授
2011年 中部大学工学部長・大学院工学研究科長
2014年 東海工学教育協会会長